

第3回デジタル活用推進検討懇談会

2025年10月31日 10時00分~ 佐渡市役所本庁2階 大会議室

次第



- 1 開会
- 2 座長あいさつ
- 3 議事
 - 1) 「2031年の先の佐渡市への提言」まとめに向けて
 - 2) その他(次年度以降の懇談会、次回日程)
- 4 副座長あいさつ
- 5 閉会



2 座長あいさつ



3 議事

1) 「2031年の先の佐渡市への提言」まとめに向けて

3 議事

1)「2031年の先の佐渡市への提言」まとめに向けて



【原案】

- 1) 佐渡市デジタル活用の加速化のため"サイバー空間でのコラボレーションデザイン"関係・交流人口(首都圏企業)と地場企業との機会創出。 メタバースとAIエージェントを活用したコラボレーション創出。 デジタルツインと空間コンピューティング(SpatialComputing)を融合し、 防災・医療・福祉・教育・生活・環境等のデータ連携をサイバー空間上で実現する。 (データ連携をデータ活用として捉え、LLM/AI Agentとの連携をしやすくする)
- 2) 佐渡市デジタル活用の加速化のため市民との新しい考え方の共創プラットフォームデザインWeb3.0、NFT、ブロックチェーンを活用した"街づくり"へのチャレンジ。DePIN(分散型インフラネットワーク)ブロックチェーン技術を活用したインフラを構築・管理する分散型ネットワークで、個人や企業が自らのリソースをネットワークに提供し、それを利用者と共有することで生み出される新たなサービスで、Web3.0を実社会へ実装をしていく。*DePINの定義では、インフラがその対象になっているが、物理的なモノ全て、個人の持つ情報や経験等も他者・他人が使えるようにすることで価値創造を生む。

"データ"を価値ある情報に変えるために"デジタル"テクノロジーであるAI人工知能を活用して市民中心の未来の佐渡市の"デザイン"をすることで、持続性の推進力を生む!ということを目的に2031年の先の佐渡市への提言を検討していくことを提案します。

3 議事

1) 「2031年の先の佐渡市への提言」まとめに向けて



【ご参考】佐渡市の宣言一覧

宣言	内容
ネイチャーポジティブ佐渡島宣言 (2022.10.23)	世界では、カーボンニュートラルに続く生物多様性保全が重要視され、「2030年までに生物多様性の回復」という目標が掲げられています。佐渡市は、トキの野生復帰を進め、生物多様性の保全に取り組んでおり、ゼロカーボンアイランドの推進と循環型経済の発展を図ります。具体的には、保護地域を拡充し、資源の削減と新産業の創出を目指し、トキとの共生の知見を他地域と共有します。これにより、「ネイチャーポジティブ」を宣言し、地域循環共生圏の実現を目指します。
ローカルSDGs佐渡島宣言 (2021.11.21)	私たちは、トキと共に暮らす島で、里山・里海文化を未来に継承するため、脱炭素、資源循環、自然 共生の理念を追求し、「地域循環共生圏」の創造に取り組みます。また、「SDGs日本モデル」宣言 に賛同し、人口減少や超高齢化などの社会的課題に対処するため、市民や企業、学校と協力し、絶滅 したトキの復帰や生物多様性保全に努めます。これにより、離島佐渡から日本の「SDGsモデル」を 世界へ発信することを決意しました。
2050年カーボンニュートラル宣言 (2020.02.23)	離島周辺には豊富な再生可能エネルギー資源があるものの、本土との系統連携がないため、高コストのディーゼル発電に依存し、CO2排出量が大きいという課題があります。これを解決するため、「自然エネルギーの島構想」を掲げ、洋上風力発電の導入や水素サプライチェーンの構築に取り組むことで、エネルギーの転換と脱炭素化を目指します。この構想は、SDGsの達成や地球温暖化への対策として重要とされ、佐渡市と粟島浦村は「ゼロカーボンアイランド」を実現するための取り組みを進めることを決意しました。
オーガニックビレッジ宣言 (2025.11.10)	世界的に生物多様性の保全が重要視され、「ネイチャーポジティブ」が次の目標として注目されています。佐渡市はこの理念を実践し、無農薬栽培米の拡大や朱鷺との共生を促進する「朱鷺の郷づくり認証制度」を導入。また、水田除草機の導入や栽培技術の向上で、豊かな生物多様性と農業経営の安定化を図ります。さらに、食農授業を通じて環境教育を強化し、有機農産物の給食提供で地域の環境ブランドを育成。地域循環共生圏の創出やゼロカーボンアイランドの実現に向けて、環境投資や循環型経済の推進にも取り組みます。



3 議事 2)その他(次年度以降の懇談会、次回日程)



4 副座長あいさつ



5 閉会

